

今後の見直し内容

事業名	青少年宇宙科学館と宇宙劇場のあり方
事業所管部局	教育委員会事務局 青少年宇宙科学館
公開審議 における 議論の概要	<p>■あり方庁内検討委員会での検討内容について (改革)平成23年度からのあり方庁内検討委員会で検討されてきた経緯は。 (所管)本市のプラネタリウムは、旧大宮市、旧浦和市時代に建設され、その後合併で類似施設が2つとなった。さまざまな課題があり3年間検討を重ねたが、その結果、当面は2館併存、将来的にはプラネタリウム施設を1館にしていくのが妥当との結論となり、現在は構想の具現化に向けさらに検討を行っているところ。 (改革)教育委員会としての今後の考えも聞くが、まず現在の2館、各々の運営と維持管理費は。 (所管)平成26年度の維持管理費で科学館約2億8百万円。宇宙劇場約1億7千万円。 (改革)それぞれのプラネタリウムの維持管理費は。 (所管)科学館は、保守点検費約1千5百万円、番組費約1千5百万円。宇宙劇場が、保守点検費約4百万円、番組費約1千万円。宇宙劇場の超大型映画の機器保守点検費約7百万円、番組費約1千6百万円。 (改革)やはり二つあることで相当経費がかかる。早急に解消する必要がある。</p> <p>■利用状況について (改革)どれぐらいの方が利用しているのか。入場料収入と合わせて聞きたい。 (所管)プラネタリウム入場料は科学館大人510円、4歳から高校生まで200円。宇宙劇場はそれぞれ610円、300円。平成26年度、プラネタリウム年間利用者数は科学館5万4,261名、総数12万7,841名で、全体の42.4%がプラネタリウムに入場。宇宙劇場5万1,390名、総数12万3,639名で、全体の41.6%がプラネタリウムに入場。超大型映画は年間8,440名。イベントが2,878名など。宇宙劇場の集会室の利用率が高く96.8%。プラネタリウム入場料と施設貸出の使用料は、科学館1,100万8千円、宇宙劇場3,052万9千円。 (改革)宇宙劇場の使用料が多いが、本来、貸館業務は目的から外れている。利用者が減少傾向だが原因は。 (所管)プラネタリウムは子どもが科学館で約半数、宇宙劇場で3分の1。長期的には増加だが最近では減少傾向。投影する番組や近隣の新設も影響があると考え。科学情報を提供する役割もあり番組に配慮が必要である。 (改革)他の政令市ではどのような機能を持った科学館が設置されているか。 (所管)機能面は、展示施設、プラネタリウムホール、天文台、実習室などを設置。展示物は、体験型が増えている。近頃は生涯学習施設を複合した例もある。 (改革)プラネタリウムや大型映画、利用者1人あたりのコストは。 (所管)1人あたり、科学館約558円。宇宙劇場約340円、宇宙劇場の超大型映画2735円。 (改革)事業費総計4億7千万円で両館の入場者数は25万1千人程度。よって1人あたり約1,800円超である。経費とすると二つあるのが大きいので審議後も一緒に検討したい。 (改革)本市では全小中学校を対象に学習利用しており、政令市で唯一とのこと。他政令市の実施状況は。 (所管)プラネタリウムを持つ15市のうち、2市が小学校全校でプラネタリウム教室を実施。他12市は、各校の希望で実施。全小中学校で実施は本市のみで教育活動として誇れる事業の一つ。 (改革)宇宙に向けて、児童生徒への教育効果は。 (所管)平成24年度全国調査の結果、小中とも全国平均を上回る結果。本市の理科教育推進の一助と考える。</p> <p>■科学館の今後の方向性について (改革)成果も上げ素晴らしいが、さらに民間のノウハウ・知恵などで効率的にやる必要がある。その考え方は。 (所管)仮に施設を整備する場合、民間力活用は選択肢の一つ。他政令市の先例にも様々な形態があり、メリット、デメリットを検討し、当面は、あり方検討委員会の結果を踏まえ、特色を活かした事業を進め、将来的には、プラネタリウム1館との検討をする。将来、世界で活躍するリーダーが生まれることを期待する。 (改革)当面2館併存とのことだが、維持管理コストの縮減、節減は引き続き取り組んでいただく。将来的には施設の建替も含めた更新が必要。その際、政令市にふさわしく、プラネタリウムは民間と役割分担し、科学館としての機能も踏まえ、本市の特徴的な取組であるプラネタリウム教室を小中学校全校対象に実施するが、適正規模、管理のあり方なども考える必要がある。他政令市同様、施設の複合化等は積極的に進める。さらに移転ならば現地をどうするかなどさまざまな論点ある。今後の取り組みの方向性について、総括的におききたい。 (所管)本市は日本一の教育都市を目指している。魅力ある生涯学習環境の整備は非常に重要な課題。特に宇宙科学館と宇宙劇場は、2館あるということでコストの縮減、維持管理を考えていく。仮に新館を造る場合は、マネジメント計画に基づき、複合化や維持管理コストを縮減し、市民サービスも低下させないよう努める。</p>
市民委員の 意見概要	<ul style="list-style-type: none"> ・重点プロジェクトの説明で新たな施設の複合化は理解できた。ワンストップであれば満足度も高まる。子供が学び意欲が持てることはプライスレス。経費節減に努め充実した施設を目指して欲しい。 ・この2施設は初めて知った。もっとPRを工夫すれば入場者も増えるだろう。 ・2館のコンテンツの統合は賛成だが、出来れば2館継続。 ・政令市なので2館あってもいい。直営の青少年宇宙科学館へ指定管理の宇宙劇場を併合すべき。 ・2施設のみわけは。旧市のものがそのまま必要性があるのか。プラネタリウムの魅力が増えているというが都内など(スカイツリー)と目的やターゲットが違う。2館維持には役割やターゲット変える必要がある。施設名を公募で市民を巻き込むのもいい。 <p style="text-align: right;">(右ページへ続く)</p>

今後の見直し内容

<p>市民委員の 意見概要 (続き)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最新のプラネタリウム機器を導入し統廃合には賛成。宇宙劇場はコミセン機能で利用率が上がっている。事業番号2と合わせて検討すべき。2館併存に賛成。各館個性を生かす事業展開が必要。宇宙科学館は子供専用にして低額に、宇宙劇場は駅から近いので大人専用などにして高く、PRを工夫すべき。 ・機器の在庫は10年が常識で老朽化したら交換しかない。プラネタリウム→会議室利用→若田氏事業はリンクしない。当面とはいつか。具体的に示して欲しい。無駄なコストは抑制すべき。 ・プラネタリウムは子供に必要。設備に頼らずソフト面で日本一を目指して欲しい。統合したいというが、宇宙劇場の改修予算が多い。 ・プラネタリウムの集約は必要。宇宙劇場の会議室稼働率が高いが本来の目的と分ける必要がある。 ・青少年の科学教育は重要。コミュニティセンターに設置し経費を減らし、多くの青少年の利用を図る。 ・プラネタリウムの費用が大きい。入場者一人当たり1800円掛かっているのは改善の余地がある。 ・経費は単年度比較でなく10年程度で検討すべき。プラネタリウムの重要なデータが配布されず検討できない。 ・大型映画はキャラクターを持つ民間と協働し学習アニメを作っては、少子化のため大人やリピーター向けの施策が必要である。 ・小4生が見学後理科が好きになったとの感想がある。これからもきれいな星をみせて欲しい。 ・さいたま市の世界に冠たる文化は盆栽で、小宇宙を形成している。盆栽を通じ複合的生涯学習も可能である。 ・若田さんもいるので子供たちの夢でなく実現できる希望が持てる。 ・第2、第3の若田さん、次世代のリーダー育成の視点は好ましい。市が持っている教育システムを公開活用して教育委員などと一層連携するといい。 ・両館の特長を生かし若田さんの協力をいただき拡大成長を願う。宇宙劇場は鉄道博物館との観光ルートを開拓し、青少年科学館は教育の場としてのプログラムとする。 ・教育事業であり縮小することなく高質の教育を提供して欲しい。 ・児童の科学知識醸成は大事。世界平和に繋がる必要な教育。さいたま市が主体となり全国に広げて欲しい。
<p>傍聴者の 意見概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・立地による役割分担を明確にすべき。役割分担をすることで併存できるのではないか。 ・宇宙劇場は商業ベース、青少年宇宙科学館は教育あるいは、児童福祉施設として役割分担してはどうか。前者は現在行っている落語や音楽等の収益の上がるものとし、後者は児童福祉施設としての位置づけを行うことで補助金を導入するなどして、児童の健全な育成に貢献していく施設としていただきたい。

◎公開審議結果などを踏まえた今後の見直し内容

- 2館の特色を踏まえ、将来的な方向性について検討を進めます。
- 若田宇宙飛行士の活躍を広める事業を推進していきます。

■2館の特色を踏まえ、将来的な方向性について引き続き検討していきます。

宇宙科学館及び宇宙劇場については、2館の特色を踏まえつつ、将来的には、公共施設マネジメント計画に則り、1館としていきます。現在、教育委員会内において、今後の方向性について検討を進めています。宇宙劇場は、指定管理者により運営されていますが、1館とする際には、より一層維持管理コストの縮減を図れるよう、さらなる民間活力の導入についても、検討していきます。また、新しい施設を建設することになった場合には、政令指定都市にふさわしい魅力的な施設となるよう、検討を進めていきます。

■若田宇宙飛行士の活躍を広める事業を推進していきます。

若田光一宇宙飛行士は、本市が世界に誇る宝であると考えており、青少年宇宙科学館と宇宙劇場、両館の名誉館長として、若田宇宙飛行士の功績を広めるため、これまでさまざまな事業を展開してきました。本市では、子どもたちの宇宙への夢をはぐくむとともに、市民の宇宙や宇宙開発への関心を高めるための事業を推進していきます。

◎改革担当部局の見解

・プラネタリウム教室を小中学校全校で実施していることは本市の特徴的な取組であり、子どもたちの宇宙への夢をはぐくむものとして継続するとあるが、既存施設の老朽化が進む中、今後新館への移転を計画するならば、統合後の利用形態を整理したうえで、全市的な複合施設の計画に注視しつつ、既存施設の当面の維持管理コストの縮減と、移転後の利用等についても併せて検討する必要があります。